

研究分担者

朝子幹也

関西医科大学 総合医療センター

病院教授

研究要旨

好酸球性副鼻腔炎は成人発症喘息を併存していることが多く、病態制御を困難にしている。喘息に対して使用している吸入ステロイド薬が投与を行われていることが多いが、通常口から呼出されている。呼出経路を鼻に変更することで、上下気道を同時に治療を行い、包括的に起動炎症を制御することで好酸球性副鼻腔炎に対する効果を検討する。

A. 研究目的

好酸球性副鼻腔炎は成人発症喘息を併存していることが多く、病態制御を困難にしている。喘息に対して使用している吸入ステロイド薬を鼻から呼出することで、上下気道を同時に治療を行う。包括的に起動炎症を制御することで好酸球性副鼻腔炎に対する治療効果の検討を行う。

B. 研究方法

気管支喘息併存好酸球性副鼻腔炎に対し吸入ステロイド薬経鼻呼出法で治療を行っている症例を後方視的に検討を行なった。評価方法は副鼻腔 CT (Lund-Mackay Score)、内視鏡鼻茸スコア、呼気中 NO、スパイロメトリーで行なう。

(倫理面への配慮)

個人情報 は匿名化し保護されている。

C. 研究結果

通常法での吸入ステロイド薬投与から経鼻呼出法をに切り替えることで 95.8%の症例で副鼻腔 CT 及び鼻腔所見が改善した。

D. 考察

吸入ステロイドの投与経路を変更したことで鼻茸は有意に減少し、副鼻腔 CT は改善を認めた。Retro nasal flow での局所ステロイド投与は有効であることが示されたが、鼻腔は生理的に呼気を副鼻腔に導くことが知られており、この事により下気道炎症のみならず上気道炎症も同時に治療された可能性が示された。

E. 結論

気管支喘息併存好酸球性副鼻腔炎は上下気道にわたる Type2 炎症であり、上下気道同時に炎症制御を行うことが有効であった。また経鼻呼出法は副鼻腔に対する効率的なドラッグデリバリーの方法であると考えられた。

F. 健康危険情報

特になし

G. 研究発表

1. 論文発表

Reduced Local Response to Corticosteroids in Eosinophilic Chronic Rhinosinusitis with Asthma. Kobayashi Y, Kanda A, Yun Y, Dan Van B, Suzuki K, Sawada S, Asako M, Iwai H. *Biomolecules*. 2020 Feb 18;10(2):326

好酸球性副鼻腔炎における包括的気道炎症制御 Airway Medicine について：朝子 幹也，小林 良樹，高田 真紗美，他：耳鼻咽喉科臨床 113(3) 35-144. 2020

2. 学会発表

呼気一酸化窒素 (FENO) と組織中好酸球の関連についての検討 アレルギー学会 2020
難治性副鼻腔炎の病態と治療 耳鼻臨床 2020

H. 知的財産権の出願・登録状況(予定を含む)

1. 特許取得

なし

2. 実用新案登録

なし

3. その他